

## 茨城県立水戸商業高等学校旧本館玄関

水戸市新荘3-7-2（茨城県立水戸商業高等学校内）

水戸市の北西部、静かな住宅街にある茨城県立水戸商業高等学校の敷地内にこの旧本館玄関があります。明治37年（1904）4月に茨城県立商業学校の本館として建築され、玄関部分が残されています。

造りは木造1階建てで、屋根はロココ調の、ドームを載せた丸みを帯びた形をしています。玄関や窓には半円アーチ形のもが用いられています。柱は石造風、内部の壁や天井は漆喰造で、美しい装飾が施されています。建築された当時は、本館の左右にはそれぞれ三つの教室が並び、ベルサイユ宮殿を模したといわれました。

設計は、現存している旧土浦中学校本館や旧太田中学校講堂などを手がけた駒杵勤治こまき けんじです。駒杵勤治は、明治10年（1877）、羽前国新庄町（現在の山形県新庄市）に生まれました。明治35年東京帝国大学工科建築学科卒業と同時に茨城県からの招聘により明治38年8月まで茨城県技師として活躍しました。その間、県立学校・県立図書館・警察署などの公共建造物の設計に携わりました。建築は全て共通したつくりで、いずれもゴシック・ロココ様式などを基調とし、当時流行していたスティックスタイルもっごつ（木骨様式）を取り入れています。

この本館は、現在の校舎が建てられる際に、すべて取り壊される恐れがありました。「旧校舎を保存したい」という同窓会などの意向を受けて、学校は昭和46年（1971）7月、PTA・同窓会の三者で「校舎保存協議会」を結成し、県に陳情書を提出しました。県ではこの動きにはのってこなかったため、協議会では建物を象徴する玄関部分の保存を独自に決め、PTAの積立金と同窓会などからの寄付金計2,200万円をあてて、昭和49年（1974）に現在地に移転しました。

同時の建築技術の高さや面影を今に伝える重要な建築物として、平成8年（1996）に国の登録有形文化財（建造物）に指定されました。

## 茨城教育 第八五七号

平成三十年六月二十日発行

編集責任者 高堀 正伸

発行人 高堀 正伸

発行所 一盤窪園茨城県教育会

水戸市見和一三五六一二

電話 〇二九一三二一七四七

印刷所 株式会社きと印刷所

